

テーマ

箕面口マン

～ 明治の森へいざなう街・箕面 ～

テーマの背景

箕面市は、明治 43 年 3 月 10 日箕面有馬電気軌道の開通を契機に大きな発展を遂げた街である。

明治の文明開化の歩みとともに誕生した街の背景には、府民に豊かな自然を提供する箕面国的公園があり、大滝までの道のりには往時を偲ぶ建物や面影が残る。

これらの往時の歴史資産と自然の資産にスポットをあて、古き良き時代（明治後期）の風情と賑わいを奏でる新たな街の顔の創出を目指す。

全体整備方針

森へのみち

自然と歴史を感じる趣きある滝道の沿道空間

歴史の風情と街の賑わいを奏でる駅前広場



明治のひかり

ほんのりとした灯りの道しるべ

まちなみや時代性との調和をはかる色彩と形状

メタルハライドランプ	4300-5000K
日の出60分の太陽	3600-4000K
ハロゲンランプ	3000K
日の出40分の太陽	2900K
普通ランプ	2850K
高圧ナトリウムランプ	2050-2150K
ろうそくの光	1700K

ロマンの賑わい

玄関口としてのもてなし空間

箕面本通り商店街へのわかりやすい誘導



明治をイメージできるもの



ガス燈

曲線の装飾



箕面市「摂津箕面公園百景」公会堂
(明治 44 年) レンガ



鋳鉄、銅板、トタン

レンガ色
(赤茶)

鉄材の色
(グレー、茶)



文字 (隷書体)



文字 (麗雅宋書体)